

第2学年 道徳科学習指導案

平成29年6月15日(木)5校時

- 1 主題名 あたたかい心で 内容項目 [B 親切・思いやり]
- 2 ねらい 温かい心で接することでお互いが気持ちよくなることを理解し、相手のことを考えて親切にしようとする態度を育てる。
教材名 「ぐみの木と 小鳥」(出典：学研「みんなのどうとく」埼玉県版)

3 主題設定の理由

(1)ねらいや指導内容について

本主題は、「主として人との関わりに関すること」の低学年内容項目 [親切・思いやり] 「身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること」の大切さを深めることを意図した内容である。これは中学年内容項目 [親切・思いやり] 「相手のことを思いやり進んで親切にすること」、高学年内容項目 [親切・思いやり] 「誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすること」と深く関わっていく。さらに、中学校内容項目 [思いやり・感謝] 「思いやりをもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深めること」へと発展していく。

よりよい人間関係を築くためには、お互いを思いやる気持ちが不可欠である。思いやりとは、相手の気持ちや立場を推し量り、理解できるということである。この思いやりに根ざした行為が親切である。具体的には、その人の身になって考え、励ましや援助などを行うことである。そして、思いやりをもち、親切にすることによって、相手も自分も温かい気持ちになり、人間関係を和やかなものにしていけると気付かせていくことが大切である。

しかし、この時期は、自己中心的な世界からしだいに視野を広げ、相手のことを考えながら行動できるようになる反面、まだまだ自己主張の強い児童も多い。また、自分の好きな友達や優しくしてくれた友達だけに親切にし、好き嫌いや関わりの多い少ないによって、思いやりをもつことや親切な行為に偏りが見られることもある。

指導に当たっては、児童が温かい心をもって人に接し、進んで親切にすることの大切さについて考えを深め、その関わりを自分の喜びとして感じられるようにし、具体的に親切な行為をしようとする態度を育てることが大切である。

(2)これまでの学習状況及び児童の実態について

本学級の児童は、消極的でなかなか友達と関わることのできない児童や、自己主張が強く、些細なことで言い争いをする児童もいるが、初めてのクラス替えから約2か月が経ち、新しい友達もでき、徐々に学級としてまとまりが見られるようになってきたところである。また、進んで教師の手伝いをしたり、困っている友達に声をかけたりすることができる児童が多く、一人の優しさが次の優しさへと繋がり、「優しさの連鎖」が学級に広がりつつある。

[思いやり・親切]の指導については、日常生活において、友達と関わる機会を意図的に

設定し、相手を思いやる気持ちを育ててきた。例えば、帰りの会では「今日のヒーロー」の時間を設け、友達に親切にしてもらったことなどの発表をさせている。また、算数の授業で練習問題をやる際には、「ミニ先生」として教室の中を自由に歩かせ、友達に声をかけてアドバイスをするという活動を取り入れている。そうした関わりを認め、称賛することで、人として望ましい行為のモデルを身近なところから示し、指導を続けている。

さらに、新1年生が入学し、一つ上の「先輩」としての自覚が芽生え、進んで声をかける姿が見られた。生活科では、1年生と一緒に学校探検をして校舎を案内したり、「1年生ともっとなかよくなるよう」というテーマで1年生に様々な遊び方を教えたりと、自分よりも幼い人への思いやりや優しい行動についても学んできたところである。しかし、まだまだ自分中心に考えることが多く、自分の都合で意地悪を言ったり、困っている友だちがいても、見て見ぬふりをしてしまったりすることもある。また、限られた友だちに対しての思いやりの気持ちや親切な行為に留まる場合も少なくない。

そこで本時では、自分の都合ではなく、身近な人に広く目を向け、温かい心で接し、親切にすることの考えを深化させたい。そして、その思いやりの気持ちや親切な行為が相手の喜びとなり、結果として自分の喜びや充足感に繋がることを理解させ、進んで親切にする態度を育てたい。

(3)教材の特質や活用方法について

本教材は、「ぐみの木」が「りす」を心配する気遣いを受けて、代わりに「小鳥」がりすを献身的に支え、励ます物語である。ある嵐の日、小鳥はりすのところへ行こうか行くまいか迷うが、葛藤の末、病気のりすを思いやる気持ちから、力をふりしぼって、ぐみの実を届けに行く。

本学級の児童の実態を受け、主に次の場面を中心に話し合うことにする。

①「りす」を心配する「ぐみの木」の気持ちに寄り添い、病気の「りす」のためにお見舞いに行く場面。

ここでは、ぐみの木の代わりに見舞いに行き、病気のりすのことを思いやる小鳥の気持ちに共感させる。

②やみそうもない嵐の中、小鳥がりすのところへ行くかを迷う場面

ここでは、りすを思いやる気持ちと嵐で自分がひどい目に遭うかもしれないという気持ちとの間で揺れる小鳥の気持ちに共感させる。

③小鳥がやっとの思いでりすのところへつき、「こんなあらしの中をありがとう。」と言われた場面。

ここでは、相手を思いやり、親切にしたことで感謝された小鳥の心に湧いた温かな気持ちに共感させる。

以上の理由から、本主題を設定した。

4 研究主題との関わりと他の教育活動との関連

心豊かにかかわり、自他共によりよく生きようとする児童の育成 —「考え、議論する」道徳の時間の充実を図り、自己の生き方についての考えを深める— ＝道徳科への移行をふまえて＝

(1) 研究主題とのかかわり

本時では、自分の都合ではなく、身近な人に広く目を向け、温かい心で接し、親切にすることのよさについて考えさせ、進んで親切にする態度を育てていきたい。そこで、ひどい嵐の中、病気のりすを助けに行くかどうかを迷う小鳥の気持ちを、自分のこととして捉えさせ、「ハートメーター」を使って、表現させる。そして、相手のことを思って迷わず親切な行動をとろうとする気持ちと、自分の都合や誰もが持つ人間的弱さによって迷う気持ちについて話し合わせ、多様な意見に耳を傾けながら、自他の思いやりや親切についての考えを深めさせたい。

(2) 指導の工夫

① 子どもの主体的な参加を促す工夫

- ・「ハートメーター」を用い、自分の考えを表現させる。
- ・ペアで伝え合う活動を取り入れ、子供の主体的な参加を促す。
- ・発問の立ち位置を変え、「自分だったらどうするか」と、投影的に発問する。本学級の児童の多くが、「助けに行く」という考えになると予想されるが、誰もが持つ人間的弱さを引き出し、それを乗り越えて親切な行動とった小鳥の気持ちを考えさせ、温かい心で接し、親切にすることを惜しまない態度のすばらしさについて、自分との関わりで考えさせたい。

② 多様で柔軟な指導方法の充実

- ・ペープサートを操作しながら資料提示をしたり、教材の世界に入り込んで考えることができるように板書を工夫したりする。

5 学習指導過程

段階	学習活動・主な発問	予想される児童の反応	○指導上の留意点 ☆評価の観点	時間
導入	1 「親切」にされた経験から、本時の課題を提示する。	・親切にされるとうれしい。 ・困っている人が助かる。	・児童のもつ「親切」のイメージについて尋ね、本時の話合いの方向性を位置づける。 ・自分の考えを自由に発表できるような雰囲気を作る。	3
展開	2 教材「ぐみの木と小鳥」の読み聞かせを聞く。	【登場人物】 ぐみの木 小鳥 りす 【条件・状況】 ・ぐみの木が友達のりすが姿を見せないことを心配し、代わりに小鳥が様子を見に行く。病気のりすのために、次の日もぐみの実を届けるが、翌日、山はひどい嵐になる。		5

3 小鳥の気持ちを中心に話し合う。

○ ぐみの木のかわりに、病気のりすさんに会った時、小鳥はどんなことを思ったでしょう。

- ・ やっぱり病気だったんだね。大丈夫？
- ・ ぐみの木さんが心配していましたよ。
- ・ 早くよくなってね。
- ・ よろこんでくれてよかった。
- ・ 明日も、ぐみの実を届けるよ。

- ・ ペーパーサートを使って読み聞かせを行い、興味関心を高め、内容理解の手助けをする。
(ユニバーサルデザインの視点)

- ・ ぐみの木のかわりに、病気のりすのお見舞いに行く小鳥の気持ちを押さえる。

意図：りすを心配するぐみの木や病気で困っているりすを見て、小鳥の心に芽生えた気持ちに共感させる。

◎ ひどい嵐で、やみそうにありません。あなたなら、どうしますか。

- ・ 嵐の様子を板書や効果音で表現し、小鳥の気持ちを想像させる。

【行く】

- ・ りすさんが待っているから。
- ・ 約束したから。
- ・ あんなによろこんでくれたから。
- ・ ぐみの木さんのかわりに行かないきゃ。
- ・ 自分が行かないと、りすさんが死んでしまうかもしれない。
- ・ こうかいしたくない。

【行かない】

- ・ 嵐の中行くのはいやだ。
- ・ 嵐がやんでから行けば大丈夫。
- ・ 自分がケガをしてしまうかもしれない。
- ・ 行ってあげたいけれど、怖い。

- ・ 「ハートメーター」を用い、自他の考えを視覚的に捉えられるようにする。また、ペアで伝え合い、多様な考えに触れながら、自身の考えを深めさせる。

- それでも小鳥が、嵐の中、力をふりしぼってとび続けたのは、なぜだろう。

- りすさんの病気がひどくなったらいやだ。
- りすさんが元気になるために、行かなくては。
- りすさんは、ぼくを待っているから。

意図：登場人物に自己を投影させ、人間的弱さに共感させつつ、それを乗り越えて、思いやりや親切にすることの大切さについて自分との関わりで考えさせる。

- ねらいにせまる発問をすることで道徳的価値を深めさせる。

- りすに「こんなあらしの中をありがとう。」と言われたとき、小鳥はどんなことを思っただしょう。

- 喜んでくれてよかった。
- うれしいよ。
- がんばって、よかったな。
- これからも困っている人を助けたいな。

- 小鳥の気持ちを語らせることで、小鳥の心に湧いたうれしい気持ちに気付かせる。

意図：思いやりの気持ちや親切な行為が相手の喜びとなり、結果として自分の喜びに繋がることに気付かせる。

- 今日、笑顔になったのはだれでしょう。

- りす
- ぐみの木
- 小鳥

- 「思いやり・親切」の基盤となる温かな心の存在に気付かせ、それが「親切にされた人」、「親切にした人」の両者に芽生えることから、「思いやり・親切」の価値付けを行い、価値理解を図る。

「親切」は、しても、されても、えがおになる。

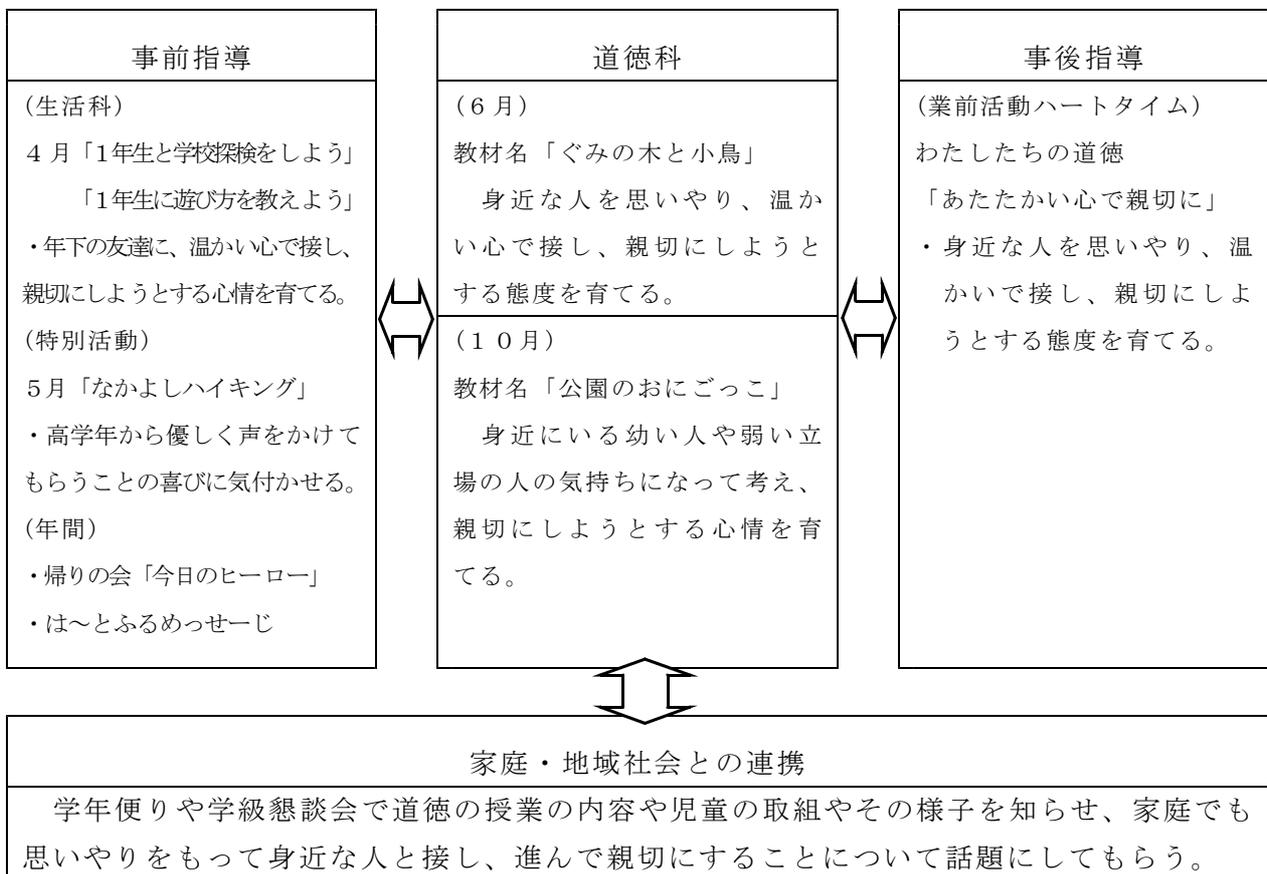
- ☆相手の身になって考え、思いやりをもち、親切にすることの大切さやよさについて自分との関わりで深く考えることができたか。(発言)

- 親切にした時、相手が笑顔になったり、喜ん

4 自分の生活をふり返る。

	自分が親切にしたとき、相手が笑顔になったことはありますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強を教えたら、よろこんでくれた。 ・落とし物を拾ったら、「ありがとう。」と言われた。 ・けがをして泣いていた友達に声をかけたら、笑顔になった。 	<p>だりしたことについてふり返らせ、進んで親切にしようとする意欲を持たせる。</p> <p>☆身近な人を思いやり、温かい心で接し、親切にしようとする意欲が高まったか。(発言)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>意図：本時の学習をふり返り、「思いやり・親切」について自己を見つめ、進んで親切にしようとする意欲を喚起する。</p> </div>	
終末	<p>5 「親切」に関わる絵本の読み聞かせをする。</p> <p>・「ごろりんころんころろろろ」</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・親切にすることのよさが心に残るような、ほっこりと余韻のある終わり方にする。 	4

6 他の教育活動との関連



7 評価の観点

〈児童の学習状況の評価〉

- ・相手の身になって考え、思いやりをもち、親切にすることの大切さやよさについて自分との関わりで深く考えることができたか。

〈児童の道徳性に係る成長の様子の評価〉

- ・身近な人を思いやり、温かい心で接し、親切にしようとする意欲が高まったか。

8 板書計画

